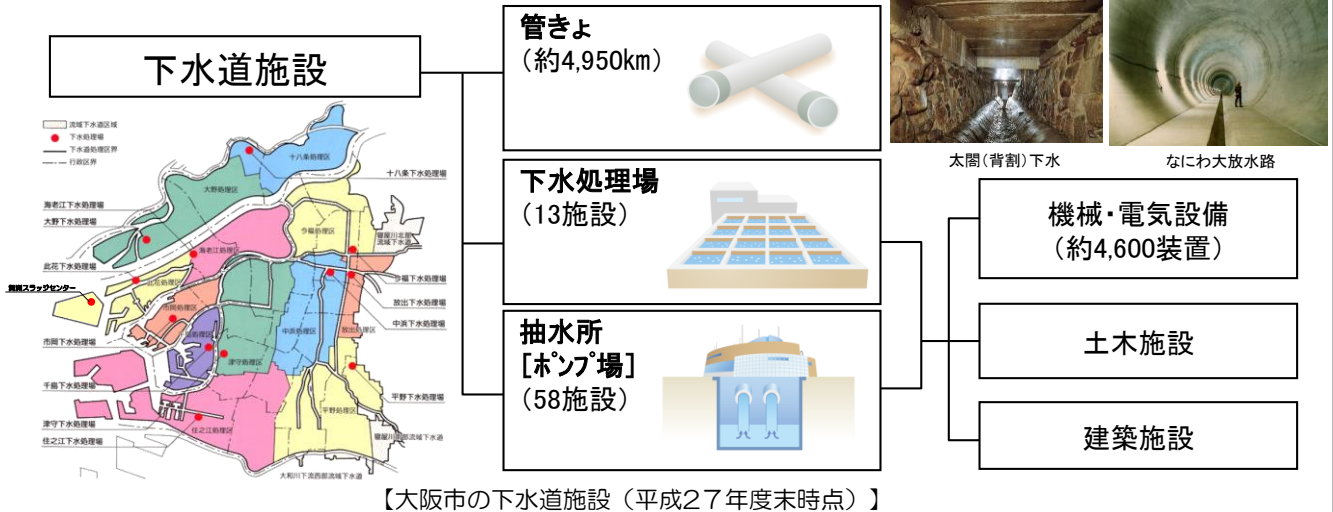


# 下水道施設管理計画（個別施設計画）

概要版

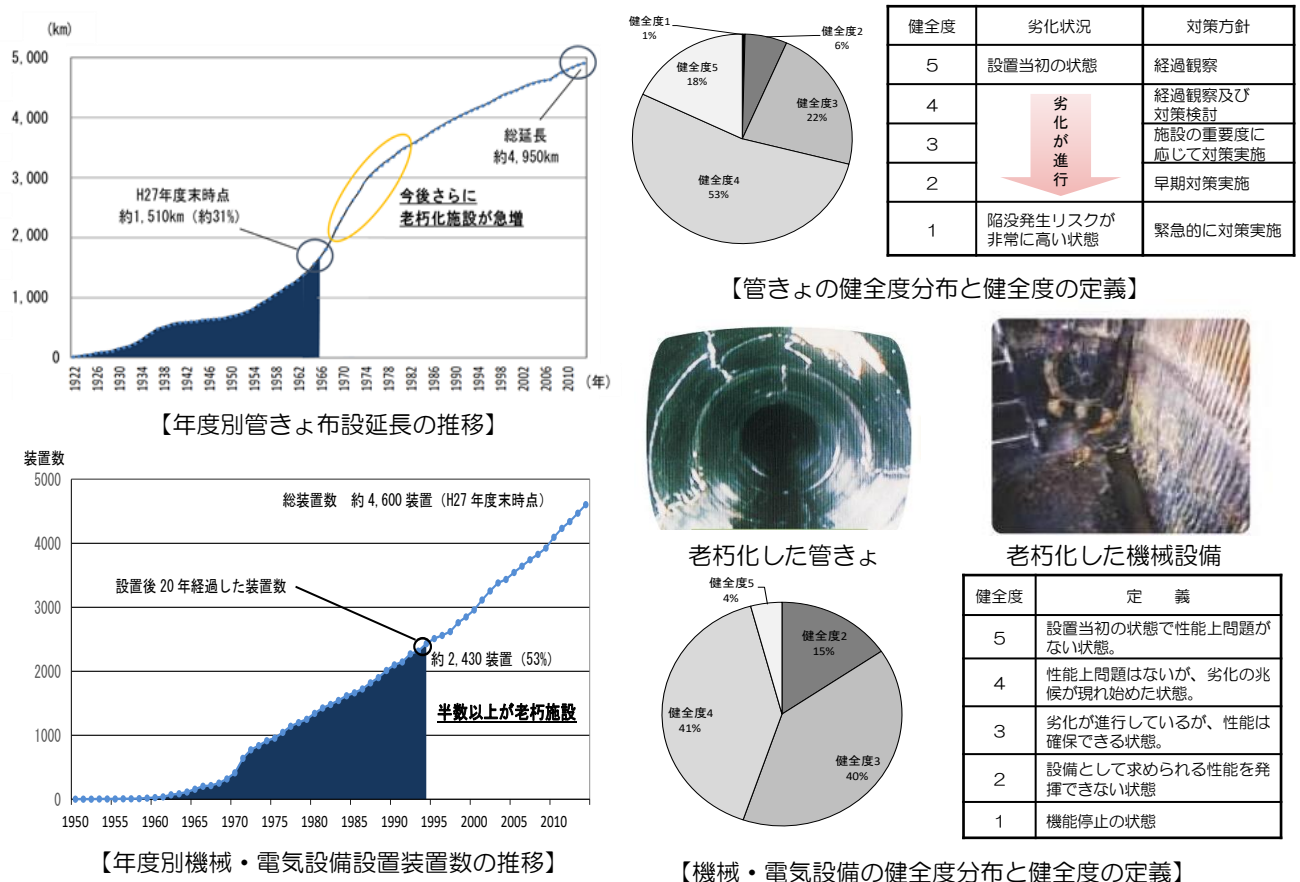
## 1. 対象施設

➤大阪市では、多種多様な下水道施設（管きょ、下水処理場・抽水所（機械・電気設備、土木施設、建築施設）を管理している。本方針では以下に示す施設を対象とする。



## 2. 施設の状態

➤大阪市では、明治27年より近代下水道の整備を進めてきた結果、膨大な下水道施設を保有しており、今後、老朽化した下水道施設の急増が見込まれている。



### 3. 維持管理方針と対策内容

#### ＜施設管理の基本方針＞

- 事業経営の持続性を確保しつつ、低廉で品質の高い下水道サービスを安定して提供するために、ストックマネジメントを導入し、計画的・効率的な施設管理（改築・維持管理）を実施する。

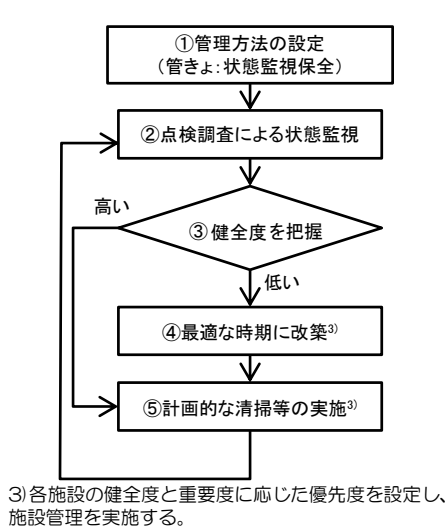
#### ＜施設管理方法＞

- 『状態監視保全<sup>1)</sup>』を基本として、各施設の特性に応じた最適な方法により管理する。

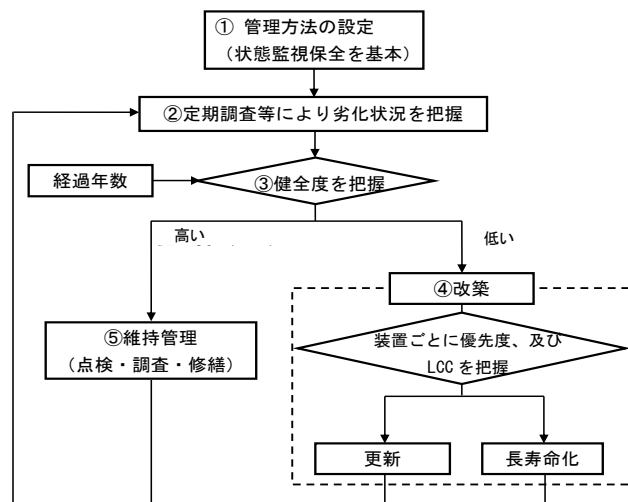
1) 施設の状態を把握し、最適な時期に改築や維持管理を実施する保全方法。

#### ＜優先度の考え方＞

- 施設が有する機能や状態の健全さ（「健全度」）と施設規模や設置条件などに基づく「重要度」により優先度を設定し、施設管理を実施する。



【施設管理フロー（管きよの事例）】



【施設管理フロー（機械・電気設備の事例）】

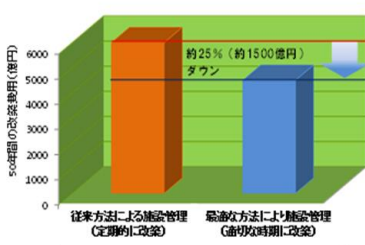
#### ＜対策内容（平成28年～令和7年）＞

管きよ	(改築)約40km/年 (維持管理)詳細調査、点検、巡視
機械・電気設備	(改築)約104装置/年※ (維持管理)主ポンプ修繕等、定期点検、試運転、日常点検
土木施設	(改築)海老江3系 (維持管理)定期点検、詳細点検
建築施設	(維持管理)改修、定期点検、委託点検、法定点検

※改築装置数の見直し（令和4年6月変更）

### 4. 計画期間と対策費用

- 詳細調査に基づく劣化曲線を活用するなど、最適な方法で施設を管理することにより、トータルコストを、管渠は約25%、機械・電気設備は約20%削減することができる。
- 本計画の計画期間は平成28年度から平成37年度までの10年間としているが、今後さらにPDCAサイクルを継続し、施設管理の適正化・効率化に向けて引き続き取組みを進める。

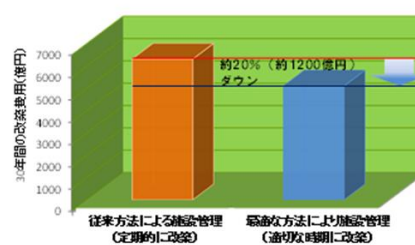


【改築費用のコスト削減（管きよ）】

(参考)  
年平均に換算すると以下の通り

＜従来手法＞  
約120億円/年

＜最適な方法＞  
約90億円/年



【改築費用のコスト削減（機械・電気設備）】

(参考)  
年平均に換算すると以下の通り

＜従来手法＞  
約211億円/年

＜最適な方法＞  
約168億円/年